

# 財政再建計画の現況は！



角田 秀明 議員

達成率65% 順調に推移

## 財政再建計画の現況

**角田** 財政再建3ヶ年計画が2年目に入り、丁度中間期を迎えているが、現在の状況は計画通り進んでいるのか。

**町長** 財政再建3ヶ年計画の現況につきましては、今年7月現在、効果目標額2億8千8百72万7千円に対して、1億8千8百44万3千円で、達成率65%となっております。残りの35%の主なものについては、未利用財産の処分と自主財源の確保であります。未利用財産の処分については処分計画を策定し、広報やぶきで公募するなど販売に向けて取り組んでおります。また、自主財源の確保のうち、その大部分を占める町税については、各税目で収納率が前年度を上回っております。さらに新たな取り組みといたしましては、地方債の繰上償還や借りかえによる平準化により、効果を出しております。

## 景気停滞による 町税納入の影響は

**角田** 景気の減速により、県では法人税が約100億円もの減収が予想されているが、当町においてはどのような状況か。

**町長** マスコミ等で報道のとおり、国内の状況は原油、原材料などが高騰し、日用品価格、食料品等が軒並み上がっており、住民生活に多大な影響を及ぼしているものと考えております。また、法人においても同様に企業収益の悪化要因となっております。このように、税を取り巻く社会環境や経済状況は、以前に増して大変厳しい環境にあると認識しております。町の本年度の税収状況であります。7月末日現在で収納率46.98%で対前年比2.4%増で推移しております。町といたしましては、今後の経済情勢や国・県の対策を見きわめながら、総合的な町税の納入に影響がないよう税収確保に努めていきたいと考えています。



矢吹町役場

## 財政再建中に矢吹中の改築はできるのか

**角田** 中学校の改築については、矢吹町にとっては、将来財政再建団体になってしまうか、ならないか進退をかけた事業になると思われる。町にとって厳しい選択になるのではないか。

**町長** 矢吹中改築整備につきましては、町の将来を担う子供たちの安全な教育環境づくりのために、財政再建計画の中で削減目標達成を図りながら、できるだけ早い時期に実施したいと

考えております。財政再建3ヶ年計画による削減効果額の一部を中学校建設基金に、今年度まで2億円を積み立てるなどして財源を確保し、中学校整備の準備をしているところであります。また、公債費負担適正化計画の面では、他の事業の償還満了による減額分に相殺され、実質公債比率の上昇も一時的なものであり、計画の最終年度である平成27年度には実質公債比率が適正団体の目安である18%以下の17.5%になると見込んでおります。



矢吹中学校

# 町政を問う



大木 義正 議員

## 若者定住促進の充実を図れ

### 助成に積極的に取り組む

**若者定住促進事業の充実を**

**大木** 地域活性化の原動力は、若い人の人口比率がどれだけ高いかが重要になります。現在、町が行っている住宅助成金の交付事業の取り組み状況と、今後の見通し、その他若者定住促進事業として、どのような取り組みを考えているのか。

**町長** 若者定住促進事業については、第五次まちづくり総合計画に基づき、次世代を担う若い方が町内に定住することにより、活気あふれるまちづくりを指すことを目的としております。制度内容は、1件5万円から15万円を3年から5年間の期間助成をする制度であり、平成22年度までの限定で実施しております。昨年度は、31人で260万円の実績となっております。また、今年度は8月末現在で14人の方に117万5千円を交付しております。助成交付の対象は、町内に住居を取得した平均年齢が40歳以下

の夫婦であり、町に10年以上定住すること等が要件になっております。今後の取り組みにつきましては、昨年度から利用状況の検証と将来に向けた検討を行ないまして、まちづくり総合計画との整合性を図っていくことで目的達成につながっていくものと認識しております。



若者定住促進事業住宅1号

**交流人口の拡大について**

**大木** 矢吹町の良さを町外、特に首都圏へ積極的にPRして町へ足を運んでもらい町を知って好きになってもらおう。こうした事業を繰り返すことによって、全国に矢吹町のファンをつくる必要があると考えるが、町の具体的な施策を伺いたい。

**町長** 人と人との交流が推進され交流人口が増加することは、町の活性化と様々な波及効果が期待できることは充分認識しております。現在、組織的な交流として、姉妹都市である三鷹市民との文化交流や産業部門での相互交流が継続的に幅広い分野で行われております。また、同じく首都圏における交流活動としては、東京やぶき会との交流も継続的に開催されており、毎年2回、会員との相互交流が図られております。今後とも、矢吹出身者へのPRと会員拡大に努めるとともに、連



あゆり温泉で開催された東京やぶき会

携をより密にしていきたいと思います。このように、交流事業は第五次まちづくり総合計画においても主要事業として位置付けており、今後もこれらの交流事業の継続と充実を図ってまいりたいと考えております。さらに新たな取り組みとしては、近年約3万人ほど来町している韓国人観光客に対して積極的に町のPR活動を行なっていきたいと考えております。

やぶき 議会だより